

**広島県内の「子ども食堂」へのアクセス  
-自宅および在籍する小学校からの距離の解析-**

広島国際大学健康科学部医療経営学科  
江原朗

日本小児科学会の定める利益相反に関する  
開示事項はありません。

**【解析方法】**

- 所在地・住所
  - 地理情報システム(GIS)により緯度経度に変換。
- 「子ども食堂」との距離
  - 小児の居住地や小学校との緯度・経度の差から三平方の定理を用いて計算
  - 「子ども食堂」から1km圏内、2km圏内に居住、あるいは、通学する子どもの割合を特定。

南北の距離：緯度1度=111.3km  
東西の距離：経度1度=111.3km×cos(小学校の北緯)  
直線距離 =  $\sqrt{(\text{南北の距離の2乗}) + (\text{東西の距離の2乗})}$

**【背景および目的】**

- 10代の死因の首位は「自殺」である。
- したがって、地域社会における子どもの見守りが必要であり、その拠点として「子ども食堂」が注目されている。
- しかし、自宅や学校から一定の距離圏内に子ども食堂がなければ、子どもたちがこうした活動の恩恵にあずかることはできない。
- そこで、広島県内の子どもの居住地、または、通学先から最寄りの「子ども食堂」までの地理的な距離を計算する。

**【結果】**

- 最寄りの「子ども食堂」から1km圏内、2km圏内に居住する広島県内の子どもの割合は16%および46%であった。
- 最寄りの「子ども食堂」から1km圏内、2km圏内の小学校に在籍する子どもの割合は28.1%および52.2%であった。
- 約半数の児童にとっては、自宅または在籍する小学校から2km圏内に「子ども食堂」が存在していた。しかし、この割合は都市部で高い傾向がみられた。

**【資料】**

- 広島県内の「子ども食堂」のリスト
  - (公財)ひろしま子ども夢財団の資料。
- 子どもの居住地
  - 国土交通省が公開している全国の500m四方の区画(500mメッシュ)。
- 在籍する小学校の所在地
  - 広島県教育委員会の資料を引用。

**「子ども食堂」から1km、2km圏内に居住する小児の割合**

自治体	自治体区分	小児人口 (0~14歳)	総人口	小児の割合 (%)
広島中核		15,201	141,829	10%
広島市東区		19,954	119,022	17%
広島市南区		18,542	145,872	13%
広島市西区		25,542	193,812	13%
広島市安芸南区	広島指定都市	41,289	249,432	17%
広島市安芸北区		16,119	139,380	12%
広島市安芸東区		11,281	79,334	14%
広島市安芸西区		19,274	138,115	14%
福山市	中核市	83,847	485,992	17%
尾道市	中核市	22,852	215,959	11%
竹原市		2,206	24,249	9%
三原市		10,800	91,742	12%
尾道市		14,740	131,887	11%
府中野		4,052	27,329	15%
三次市		5,997	50,508	12%
庄原市		3,809	33,977	11%
大竹市	その他の市	2,931	26,460	11%
東広島市		27,625	184,798	15%
庄原市		14,826	112,569	13%
安芸高田市		2,958	27,698	11%
広島県全体		7,285	51,117	14%
尾道市		4,040	28,579	14%
府中野		2,051	22,648	9%
安芸市		1,863	12,758	15%
安芸市東部		471	2,716	17%
北広島市		1,842	13,114	14%
大津上郷町		500	2,015	25%
府中野町		1,023	10,008	10%
津和野町		740	8,241	9%
広島県全体		364,026	2,818,000	13%

子ども食堂から1km圏内、2km圏内に居住する子どもの割合が広島県全域の底(1km圏内16%、2km圏内46%)を上回る自治体(黒:1km圏内および2km圏内、灰色:2km圏内のみ)

### 「子ども食堂」が学区内に存在する 小学校の割合

区分	自治体	公立小学校の 学区数	「子ども食堂」がある 小学校区	
	数		数	比率
政令指定都市	1 (広島市)	141	27	19.10%
中核市	2 (福山市・呉市)	109	7	6.40%
その他の 小規模な市	13	161	15	9.30%
郡部(町)	7	40	1	2.50%
県全域	23	451	50	11.10%

### 【結論】

- 広島県内の子どもの約半数は自宅または通学する小学校から2km圏内に最寄りの「子ども食堂」が所在した。
- しかし、自治体の人口規模でその割合には差異が見られた。
- 子どもたちの地域における見守りの拠点として「子ども食堂」の活動が活性化することが望まれる。

### 「子ども食堂」から一定距離圏内 の小学校に在籍する小児の割合

距離圏	在籍児童の割合				
	政令指定都市	中核市	その他の 小規模な市	郡部(町)	県全域
500m未満	20.20%	7.70%	5.40%	8.60%	12.80%
1km未満	42.20%	17.50%	15.70%	17.90%	28.10%
2km未満	68.60%	35.20%	39.20%	53.80%	52.20%
3km未満	81.40%	53.50%	51.90%	57.20%	65.80%
4km未満	89.40%	65.30%	68.70%	64.20%	76.80%

### 【考察】

- 広島県内の解析では、「子ども食堂」がある小学校区の割合に比べて、アクセス可能な割合は高い傾向がみられた。
- その理由としては、「子ども食堂」は都市部に集中し、町村部では少ないためであると考えられる。
- 一方、「子ども食堂」の開催頻度は月1回程度の開催が多く、食物の補給というより、地域での見守りが主体になると考えられる。